

## 埼玉・新倉館跡

- 1 所在地 埼玉県児玉郡美里村大字南十条字新倉
- 2 調査期間 一九七七年(昭52)十二月～一九七八年三月
- 3 発掘機関 美里村教育委員会
- 4 調査担当者 菅谷浩之・岡本幸男
- 5 遺跡の種類 居館跡
- 6 遺跡の時代 室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

新倉館は構造改善事業に伴う調査によって発見された館であり、本館についての記録はなく、『埼玉の城館跡』にも記載されていない。ただ伝承として、江戸時代に屋敷が存在していたとも言われている。

館は標高七六メートル程の平坦地に位置し、周辺は畑と水田であり、たまたま内堀の部分が方形に水田として残っていたため、分布調査の際に注目したのが発端である。

館の存在するこの地域は、当初の計画では削平する予定であったが、館跡であることが確認されたため、一部を調査して保存することになった。

調査によると、外堀を含めた館の規模は、東西一二〇メートル、

南北一四〇メートル程で、内郭の規模は中央部で東西六一メートル、南北七三メートル程であった。

一部の調査であったが、内郭から発見された遺構としては、柱穴が代表的なもので、中央部南寄りに集中して見ることができた。少なくとも三、四棟の建物遺構を確認している。その他に、粘土堆積遺構、礫配石遺構、土壇状遺構などである。

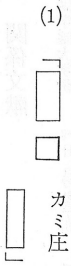
内堀は三カ所で確認したが、幅八・二メートル、深さ一・八メートル。外堀は西側の大半と北側は、道路や削平により不明であったが、南側の外堀の中央で幅五・二メートル、深さ一・六メートル程で、いずれも葉研堀である。

出土遺物は、木製品として木簡が内堀より二点、外堀より一点出土した。他の木製品として漆塗の椀や、曲物などがある。中世の館らしく、外堀からは多量の内耳式土器やホウロク、それに各所でカワラケが出土している。古銭は熙寧元宝と景德元宝であった。

### 8 木簡の积文・内容

木簡は三点出土しているが、材質はスギ材である。(1)・(2)は完形であるが、(3)は一部のみである。

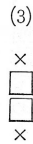
积文については、墨跡の赤外線写真では比較的鮮明な箇所もあるが、独自の崩字で判読の困難なものである。



122×25×6 015

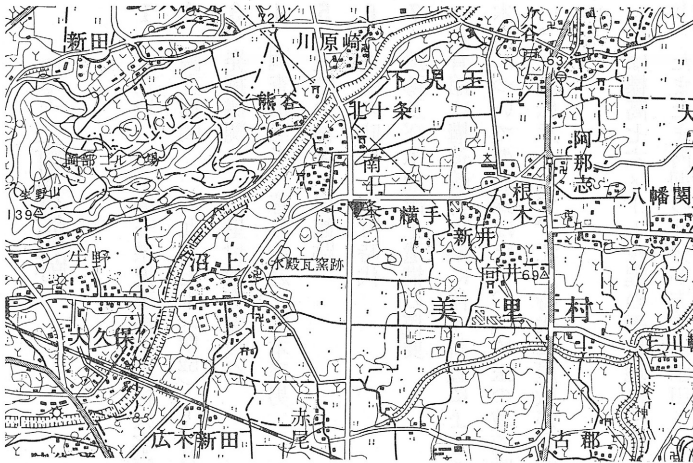


122×28×3 015



(67)×27×4 015

なお、上端に径三ミリの孔がある。



新倉館跡木簡出土地点図

### 9 関係文献

菅谷浩之・岡本幸男  
『武蔵新倉館』（埼玉  
玉児玉郡美里村教育  
委員会）

一九七八年  
(菅谷浩之)